



# 東援だより

vol.  
**40**  
2023.10

## 理念

私達は、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。



## もくじ

ごあいさつ ..... 1

追悼 ..... 2

新しい事業 ..... 4

委員会活動報告 ..... 5

施設活動報告 ..... 6

役員紹介・編集後記 ..... 8



## 理事長挨拶 コロナ後の福祉サービス

理事長 中村 明彦

2020年1月中国武漢から発生した新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大し、国内でも緊急事態宣言が発令され、日常の生活や経済活動の停滞を余儀なくされました。3年間におよぶコロナウィルスとの闘いの末、本年5月5日にWHOが緊急事態宣言の解除を発表、5月8日から政府も感染法上の位置付けを「5類」に引き下げました。

悪夢の3年間に人と人との交流、コミュニケーション不足が原因となり、人との相談や接触が減り、人々の生活や社会環境が大きく変化をしてしまいました。

これからはコロナ前の様に人々が本来の対面での行動が出来る事になります。日常生活や経済活動、そして感染症予防対策を図りながらですが、福祉サービスもコロナ発生以前の状態で過ごすことが出来ると思います。

わが法人におきましても、以前にも増して利用者の方々に満足度の高いサービスと近隣の方々との密接な交流を図って参らなければなりません。

今後も東京援護協会の理念である「利他の精神」を持って社会貢献をして参りますので、皆様方のご理解とご協力を賜り邁進して参りたいと存じます。



昭和 50 年から令和 3 年まで 46 年間、社会福祉法人東京援護協会の理事長を務められました山口桂造様をご逝去されました。在りし日のお姿をお偲びし、これまでのご厚情に感謝するとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

前理事長 山口桂造 様  
昭和 7 年 10 月 4 日生  
令和 5 年 4 月 19 日没 (享年 90 歳)

## 追悼文

社会福祉法人東京援護協会理事長 中村明彦

社会福祉法人東京援護協会 前理事長山口桂造氏が令和 5 年 4 月 19 日にご逝去されました。御霊に対し謹んで哀悼の意を表しますと共に深い落胆と悲しみの念に堪えられません。

故山口桂造氏はご尊父栄次郎氏の後を継ぎ、46 年間理事長として事業を拡大し社会福祉に貢献されて参りました。その間、地域社会におきましても奉仕団体である上野ライオンズクラブの会長及び地区ガバナーを歴任され、又上野法人会や上野観光連盟の会長として、東北新幹線上野―盛岡間の開通開業誘致活動の先頭に立ちこれを実現させ、上野地区の発展にご尽力されました。さらに、台東区の監査委員を勤められ行政執行のお目付け役として台東区政の進展にも寄与され、そのご功績は枚挙にいとまがありません。まさに巨星墜つての感でございます。

東京援護協会の理念にある「福祉とは利他の精神をもって奉仕するもの」と言う山口桂造イズムの教えは、今も多くの職員に引き継がれております。

私も故山口桂造氏の教えを守り、東京援護協会を日本における社会福祉法人の範となることを目指して行く、そのことが前理事長に対する恩返しと考え、職員一丸となり、事業運営に邁進して参る所存でございます。最後に、多くの人に幸せを与えていただきました故山口桂造前理事長のご冥福を心よりお祈り申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。 合掌。

## 追悼の言葉

社会福祉法人東京都社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会会長 斎藤弘美

山口桂造様は、社会福祉法人経営者協議会の会長を 2005 年度から 2008 年度まで、2 期 4 年間なされました。山口様が会長時代になされたことの中で、特に記憶に残っているのは、広報誌「法人協」を創刊されたことです。現在は、「福祉法人経営」と名称を変更し、東京の福祉経営の情報等を知る大切な広報誌となっております。その創刊号でも書かれておられるように、これまでの当会設立経緯や福祉の歴史をよくご存じで御られ、これまでとこれからの福祉経営についての道筋を伝えようと言われていたと感じておりました。

このたびは突然の訃報で驚きましたが、山口様が作って頂いた福祉経営の道を、これからも歩み続けるように努力していきたいと思っております。

謹んでお悔やみを申し上げますと共に心からご冥福をお祈りいたします。

## 山口桂造先輩を偲ぶ

社会福祉法人東京援護協会評議員、東叡山寛永寺貫首 浦井正明

山口桂造先輩が急逝された。少し前にふらっと私の自宅に来られ、珍しく応接間に上がらず、今日は何の御用でと尋ねると、今日はこれだと言われてお帰りになった。

今から考えると「お別れ」に来られたのかと思われる。

桂造先輩とは何時頃からだったか。確か先輩が上野観光連盟の事務総長をしておられた時からだったと思う。

大学の先輩だったこともあり、気も合って急速に親しくなったことを覚えている。

東京援護協会の理事長だった先輩に理事にと言われ、後に規則が変わったので評議員にと任命された。

また、二十数年前には朝日信金の長野幸彦理事長と来られ、「十二日会」へとお誘い戴いた。私は町の間人ではないからとお断りするとどうしてもと言われて入会した。

例会で何時も私の隣に座られた先輩、今は只管御冥福をお祈りするばかりである。

## 前理事長 山口桂造様を偲んで

社会福祉法人東京援護協会理事 中山真知子

私は社会福祉法人東京援護協会に30年近く勤務させていただきました。  
福祉の世界を知らなかった私が長きにわたり仕事を続けてこられたのは、前理事長山口桂造様から、お教えいただいた言葉があったからです。

「存在有意観」その意味するところは、「そこにある（いる）だけで意味（価値）がある」です。この言葉は、福祉に関わる者として、福祉を必要としている人々に何をすべきかの指針となり私の福祉の原点となっております。前理事長山口桂造様は、折に触れて、施設においてになりました。そして、利用者の方々に、「みんな仲良く楽しく元気に過ごしてください。いつも願っています」と言葉をかけ、利用者の方々は、「はい、理事長さんも元気でね」と応えていました。その光景はととても心温まるものでした。

ある時は、「利用者は天使、その人生が平和なものでなくてはならない」とも仰っていました。前理事長山口桂造様の福祉に対する確固たる信念と温かなお人柄が偲ばれるお言葉だと思います。

「存在有意観」の深い意味をお教えたくださった前理事長山口桂造様との出会いに感謝し慎んでご冥福をお祈り申し上げます。



法人創立60周年を祝う会（平成25年3月）



法人ボウリング大会（平成31年2月）



いずみの苑 敬老会（令和元年9月）

## 山口桂造前理事長の主な経歴

昭和45年7月	社会福祉法人東京援護協会 上野宿泊所	所長
昭和50年12月	社会福祉法人東京援護協会	理事長
昭和52年5月	社団法人上野法人会	副会長
昭和57年7月	東京上野ライオンズクラブ	会長
昭和58年5月	上野観光連盟	会長
昭和58年5月	社団法人東京都観光連盟	理事
昭和58年5月	財団法人動物園協会	評議員
昭和61年6月	東京商工会議所台東支部	観光部会長
昭和63年9月	社団法人東京都社会福祉経営者協会	副会長
平成2年5月	上野料飲連合会	会長
平成3年7月	ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区	ガバナー
平成4年4月	朝日信用金庫	非常勤理事
平成4年7月	公益法人ライオンズ日本財団	理事長
平成5年1月	東京商工会議所台東支部	副会長
平成5年2月	社会福祉法人恵比寿会	理事
平成7年12月	台東区	監査委員
平成8年12月	台東区	代表監査委員
平成10年5月	上野観光連盟	名誉会長
平成13年5月	全国社会福祉経営者協議会	副会長
平成14年6月	社会福祉法人東京都社会福祉法人協議会	会長
平成15年3月	社会福祉法人東京都社会福祉協議会	副会長
平成15年3月	社会福祉法人台東区社会福祉協議会	理事
平成15年4月	社会福祉法人東京援護協会 台東区立ケアハウス松が谷	施設長兼務

# 仲宿地域包括支援センターが開所しました

令和5年4月1日に、仲宿地域包括支援センター（おとしより相談センター）が開所しました。当法人においては、4つ目の地域包括支援センターとなります。

事務所は、板橋区役所など公共施設が立ち並び板橋区中心地に程近い氷川町にあります。担当区域は、仲宿、氷川町、栄町、稲荷台、加賀（一部）です。区域内には、石神井川が流れ、川沿いの桜並木は、春には桜の名所になり、普段は地域の方の憩いの散歩コースとなっています。

地域特性としては、長年この地域に住んでいる方が多く、地域住民の方同士のつながりも強い地域です。高齢者支援についても関心が高く、地域の方々から様々な相談が地域包括支援センターに寄せられています。仲宿地域の高齢者支援の拠点として、地域の方に信頼される事業所となるよう職員一丸となって取り組んでいきます！

開所したばかりの事業所ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

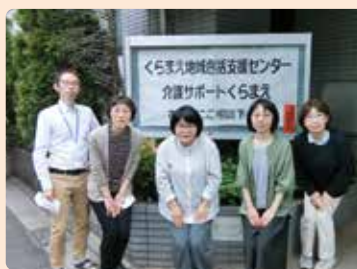


住所：板橋区氷川町38-6 フローラル大山1階  
電話：03-5944-4611

## 東京援護協会運営の地域包括支援センター



**蓮根おとしより相談センター**  
住所：板橋区東坂下2-2-22  
電話：03-5970-9106



**くらまえ地域包括支援センター**  
住所：台東区蔵前2-11-3  
電話：03-3862-2715



**まつがや地域包括支援センター**  
住所：台東区松が谷4-4-3  
電話：03-3845-6505

# 地域公益活動委員会

## 法人の取り組み

法人では、平成 29 年に子どもたちの居場所作りとして「食事と映画観賞会」を始めました。参加者との交流を通じて、生活実態を垣間見ることができました。同時期から、高齢者の方への「足指体操」を主としたイベントを定期的に開催しました。

参加者からの声がきっかけで、高齢者支援に繋がったケースもありました。

コロナ禍で、社会の動きが止まった中、何ができるのかを模索していた時、「各施設での取り組みが、実は地域公益活動になっているのでは」との思いから各施設で行っている取り組みを集約しました。以下の写真はその一例です。

食事と映画鑑賞会で  
子どもたちの居場所  
作り。



高齢者の方への  
足指体操。



### 地域清掃



### 地域交流会



### 物品販売



『職場体験・介護教室』、『車いすの貸出』、『実習生・ボランティア等の受け入れ』等もしています。

地域公益活動委員会では、将来的に各施設で独自に取り組める活動の一つのツールとして、これまで行って来た「足指体操」を定着させたいと考えています。当委員会は、さる7月22日に大泉障害者支援ホームで行われた地域の生産農家様と共同で実施した「野菜市」に参加して、高齢者の体力低下を予防する「フレイル予防」の紹介をしてきました。

### フレイル予防



### 野菜市



## 今後の課題

法人には「高齢」・「障害」・「生活困窮」の施設があり、各施設の特性・地域性を活かした地域公益活動に取り組んでいます。

今後は、「孤立・80-50問題・ゴミ屋敷・孤立死・ダブルケア・ひきこもり・DV・虐待・コロナ禍での生活困窮・つながりの希薄化・

生きづらさ」等、制度と制度のはざまにいる方の福祉ニーズを把握し、関係機関と連携し地域の福祉ニーズに応えていくことが地域公益活動の課題です。

当委員会はこれらの福祉ニーズをしっかりと把握して、地域公益活動を積極的に取り組んでまいります。

## 『社会生活を高める取り組み』

### 中村橋福祉ケアセンター

「社会生活を高める取り組み」として「社会生活力プログラム」を実施しています。障害のある方が自分の障害を理解し、自分に自信を持ち、必要なサービスを活用して、自らの人生を主体的に生き、社会参加していく力、権利を行使する力をつけるためのプログラムです。職員がファシリテーターとなり、参加者の主体性、自立性を引き出すことに取り組んでいます。



## 『介護保険に関する勉強会』

### サルビア荘

近隣住民の方と「介護保険に関する勉強会」を行い、地域自治会の方を中心に 20 名程度の方が参加されました。介護保険の利用の仕方や、介護保険のサービスの種類など基本的な事柄を中心に、職員の家族が初めて介護サービスを利用した事例等を交えてわかりやすくお伝えしました。勉強会を通して地域との交流を深める活動を今後も実施していきます。



## 『うへの桜フェスタ2023』に初出店

### 東京援護協会

「うへの桜フェスタ」が 3 年ぶりに上野公園で開催されました。法人は初めての参加で、利用者が一生懸命に作ったさまざまな「自主生産品」を販売しました。

あいにくの寒さと雨でしたが、会場に足を運んで下さった関係者の皆様ありがとうございました。各施設の自主生産品を合同で販売するのは初めての経験でした。法人の PR や職員交流が図られました。



## 『絵本の朗読コンサート』

### 大泉障害者支援ホーム

当施設 Café vivo tree の常連の地域の方からお声かけいただいて実現したイベントです。

マリンバ、キーボード、和太鼓の演奏を織り交ぜながら絵本の朗読が始まると、楽器の音色と朗読者の声が醸し出す独特の世界観に魅了されました。この時はまだコロナ禍であったため、地域の方も通所の利用者もマスク着用での参加、入所の利用者はモニター画面での視聴となりましたが、参加された地域の方からも「感動する内容でとても良かった」と感想をいただき、癒されたひと時を楽しみました。



## 『心がときめく五感サイン』

### 大泉障害者支援ホーム

施設建て替え時に大変お世話になりました(株)丹青社様からのご提案で、インクルーシブデザインとして、心がときめく五感サインの開発に関わりました。



食事の時はこんな音がほしいな～

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」で持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現に向けてにあたり、従来のサインでは不便を感じる方が少なくありません。

五感サインは、障害の有無や性別、年齢を問わずに誰もが暮らしやすい、生きやすい社会交流空間の創造を図るためのものです。

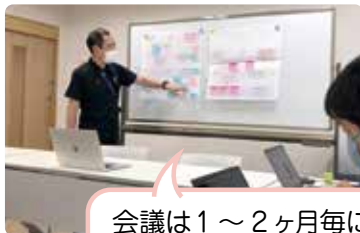
今回は、当施設の視覚障害者の方に時間の経過がわかるオリジナルのサウンドサインを創っていただきました。

サウンドサインが流れることで、職員が促さなくても次の行動への準備ができるなどの効果があり、施設のサインとして定着しています。



(残り15分)♪片～

あと15分だ…



会議は1～2ヶ月毎に計7回行いました。

### 食事の場面でサイン ミュージックを活用

- ① 始まりのサイン
- ② 残り15分のサイン
- ③ あと5分で終了のサイン



残り15分だ…

## 『うまいもんテイクアウトランチ会 in いたばし』

### 蓮根福祉園



蓮根福祉園では、コロナ禍でも利用者を楽しんでいただける活動として「うまいもんテイクアウトランチ会 in いたばし」というイベントを始めました。

近隣の味自慢の店を職員が調べ、利用者が8グループに分かれてその店からランチをテイクアウトします。そして、園内の一室を特設ランチ会場



に飾り立てて、買ってきたお弁当を味わうというものです。

黙食の中ですが、利用者のみなさんの顔は自然と笑顔にあふれてきます。

「普段は食べないメニューで嬉しい」「とても美味しかった」「買い物も楽しい」といった感想が次々と出て好評でした。

食べるだけでなく、利用者が地域の飲食店に行くことでの交流も図られ、アフターコロナに向けたイベントになりました。



# 秋の花壇コンクールで入賞!

町田荘

私たちは、年に2回行われる「町田市花と緑の会」主催の花壇コンクールに参加しています。主催者から花の苗や肥料を受け取り、花壇のデザインを考え、丹精を込めて育てています。

毎回、花が咲くのを楽しみにしている利用者さんも多く、去年の秋に初めて「入賞」をいただき、とても嬉しそうでした。

授賞式では、賞状と副賞のスコップ、枝切りバサミをいただきました。賞状は、町田荘の受付の上に高らかに飾っています。次回は優秀賞を目指します。



## 役員紹介

### 理事長

中村明彦

### 副理事長

菅田正明

### 常務理事

山口悟

中田圭太郎

### 理事

服部清道

中山真知子

山口博紀

### 評議員

浦井正明

関口和雄

保坂敦子

潘桂華

今井明男

森田豊

井上孝博

會田玉美

栗原三津子

根木康孝

### 監事

橋本和夫

笠原重厚

令和5年6月30日  
定例評議員会で  
再任されました。

## 編集後記

各施設では熱中症対策と感染症対策を行い、様々な活動に取り組んでいます。

広報委員会は、各施設担当18名と担当施設長等で構成され、3年ぶりに対面での編集会議を実施するこ

とができました。

今号は前理事長の追悼の記事を中心にさせていただきました。

多くの皆様に取材などご協力をいただき編集員一同厚くお礼申し上げます。  
表紙写真:『納涼祭』町田荘



東援だより 第40号

発行日 令和5年10月28日

発行者 中村 明彦

社会福祉法人 東京援護協会

東京都台東区東上野3-18-11